

「介護保険」15年 減らない介護悲劇 介護自殺は年間約300件、介護殺人は17年間で672件以上！

「介護悲劇」を繰り返えさせない！市民学習会

「札幌介護殺人事件」が問うもの

日時 2016年3月5日（土）13:00～15:45

会場 市民ギャラリー内 中央区東地区会館（南2東6） ☎ 011-241-1696



第Ⅰ部 報告 届かなかった「支援」と事件の真相 千田 忠（元酪農学園大学環境システム学部教授）

講演 変わる家族、増大する介護困難 笹谷春美（北海道教育大学名誉教授）

第Ⅱ部 パネルディスカッション

介護保険はどう変わる？ 介護支援事業所やケアマネからみる家族介護の実態と支援のあり方、危機介入や処遇困難事例への対処。介護者支援の先進地栗山町の支援の実際、行政の役割、自治体の支援策など

講師 プロフィール（さきたに はるみ）

日本学術会議連携会員 北海道教育大学名誉教授
専門 家族社会学 ジェンダー論 高齢者介護政策論
フィンランドの高齢者ケア研究 など

どなたでも参加できます。一緒に考えましょう！

昨年2月に札幌市で「介護疲れによる殺人」が起き、私たちに大きな衝撃を与えました。介護保険制度が発足して15年経つのに、全国的にこうした介護の悲劇があとを絶ちません。制度のことを学び、悲劇を繰り返さないため、いっしょに考えましょう！

漫然としていれば悲劇は繰り返す（A新聞の論評から）

「そもそも介護保険制度は家族介護などの行き詰まりを解消するために制度設計されたはずではなかったか」「事件を通じて介護保険が機能していない現実と向き合うべきだ」「お役所主義的な申請主義が今回の悲劇を生む遠因となった」「運用のあり方、行政対応を見直したい」……

主催 札幌介護殺人事件を考える市民学習会準備会（事務局 011-242-8190）資料実費 300円

後援 北海道新聞社

連絡先メール kourei21@nifty.com（会場座席数は72名です。早めにおいで下さい）